

## 2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 3 月 12 日

| 所属  | 基盤教育機構                      | 職名               | 助教                                    | 氏名   | 吉田 実久 |
|---|-----------------------------|------------------|---------------------------------------|------|-------|
| 研究課題  | 現象学的アプローチを用いた科学教員の見取りに関する研究 |                  |                                       |      |       |
| 研究キーワード   | 現象学、教員、質的研究                 | 当年度計画に対する達成度     | 3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した |      |       |
| 関連するSDGs項目  | 4. 質の高い教育をみんなに              | 10. 人や国の不平等をなくそう | 該当なし                                  | 該当なし |       |
| <p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は、現象学的アプローチを用いて科学教員がどのように科学と学習者の学びについて見取るのかを探索的に検討することを目的に実施された。科学技術の発展に伴い学習者が教員と直接コミュニケーションを取らずとも学習を進めていくことが出来るようになり、多様な学習者のニーズに応えることが可能になった。しかし国際調査などから、日本の科学教育の課題として、理科や科学の学習の楽しさ、有用性を感じる子どもが少ないことが挙げられている。そのような状況における教員の役割として、学習者の学びの過程を見取り、環境を整え、見通しをもって支援する力が求められている。本研究は、教員が科学教育の学習空間においてどのような情報を見取り、解釈し、実践へとつなげていくのか、その手法としての現象学的アプローチの有用性を検討した。</p> <p>研究成果として、デンマークの事例を元に行った分析を査読付き論文として発表することができた。デンマークの学校教員が持つ科学の学習に対するビリーフ（信念）は、既存のビリーフシステムだけでは捉えきれず、教員としての経験をもとにした語りに対して、現象学的アプローチを用いて分析することで、より豊かに記述することができた。</p> <p>研究の当初は、中等教育学校における教授内容に習熟している中堅の科学教員を想定していたが、現象学的アプローチによって特定のフィールドにおける当事者の経験を主体的に、豊かに記述できることが判明したことから、フィールドを学校教育に限らず設定することにした。そのため、特別支援学校やイマージョン教育、女性など、よりマイノリティに位置づけられる人々の経験を分析の対象とするためのプレ調査や視察などを複数行った。また、当事者研究、マイノリティ研究、質的研究法など、研究方法をより探索的に検討し、文献調査を重点的に行ったことにより、理論面での基盤を整えることができた。</p> <p>以上の結果から、研究成果としては多くはなく、実際の調査を実施するところまでは研究を進めることができなかった点が課題として残った。しかしながら、複数のフィールドとの関係性構築を進めることができ、加えて、科学研究費スタート支援が獲得できたため、次年度以降に今年度の理論的検討と、フィールドへのアクセスを元にして、実際の調査と研究発表を行っていくこととする。</p> |                             |                  |                                       |      |       |
| <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>Science Teachers' Beliefs on Science Teaching and Learning for Implementing in STEM Education、Yoshida, Miku and Sølberg, Jan, Co-authored paper, Science Education International, 35 (3)、192-197、2024.</p>   |                             |                  |                                       |      |       |
| <p>3. 主な経費</p> <p>・データ分析、論文執筆のためのノートパソコンを購入した。</p>  |                             |                  |                                       |      |       |

- ・国際学会誌の論文掲載のための掲載料を支出した。
- ・情報収集のため、国内学会参加のための旅費を支出し、出張した。

#### 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

##### 【科学研究費】

- ・研究活動スタート支援：令和6年度～令和7年度、代表、課題名「独立研究者の研究動態の解明ー研究課題統合検索システム GRANTS を超えてー」（24K22738）

##### 【その他の活動】

- ・日本科学教育学会における国際交流委員会委員（令和6年6月まで）

（本文は2ページ以内にまとめること）